

## 【第6回 ワークの進め方】

### （1）事例のシェア・確認：

自分たちのグループが選んだ事例について、全員が内容を理解できているか、確認する  
進行役は、自分のグループの事例と立場の選択肢をブレイクアウトルームのチャットに貼り付けて共有してください

事例1：大阪大学の大学院生の抱える悩みについて研究している知り合いの研究者が...あなたがソーシャルメディア上で書いた悩みについて「大阪大学の文系大学院生の悩み」の例として、自分の論文で使用していたということをあなたは知りました。あなたの名前やアカウント名は非公開となっているものの、あなたの投稿内容を論文の中で使用することをあなたは事前には聞かされていませんでした。

**研究者が、ソーシャルメディアを通して発信されたある人の発言を、匿名化されているが許可なく研究に使用することは、研究に関する倫理の観点からA:認められる／B:認められない**

事例2：私は、ある地域の消滅危機言語の研究をしたいと考え、文法や語彙についての文献研究を行っている。...文献の管理や消滅危機言語の継承活動(その言語の話者を増やす活動)をボランティアで行っている人たちから「あなたが私たちの言語を研究するのはかまわないし、文献も貸します。でも、あなたの研究が、私たちの継承活動に役に立つならもっといいのに...」と言われました。

**生きている人やコミュニティ・文化を研究対象とする場合に、研究対象・協力者の要望に研究者がA:応える努力をする必要がある／B:必要はない**

事例3：私の所属する研究室では、修士課程の大学院生にも研究室全体の研究に関連する活動に関わることが推奨されている。...ある時、指導教員から、教員が関わっている学会が今度の土日に大学で行われるが、急に人手が必要になるので手伝ってもらえないか、と声をかけられた。しかし、学会が行われる土日は、プライベートでも忙しい時期で、家族からも家の用事を頼まれており、高校時代の友人が帰省するので会おうと言われている。

**この場合、A:研究活動の協力を優先する／B:自分のプライベートの用事を優先する**

### （2）それぞれの立場、理由や論拠のシェア：

グループの全員が、事例に関する問いについて、AかBのどちらかの立場に立ち、そう考える理由をできるだけ短くチャットに書く 例→「A：~~~~~だから」

全員がチャットに立場と理由を書いたら、一番上の人から、書いたことを口頭でも短く説明する

### **(3) 異なる立場の人・理由・論拠について質問をしよう：**

反対の立場の人やその理由・論拠について質問をしてみましょう

→進行役は、「自分とは異なる立場の人の意見や論拠を理解するために、何か質問はあるか？」と聞く

相手の立場の人全員に答えてほしい質問か、特定の人だけの質問かを確認して答えてもらう、答えに対してさらに質問はあるか、また逆の立場からの質問はないかを聞いて、この質問と答えのやりとりをしばらく続ける（一つの質問のやりとりだけが長くなる場合は、他に質問がある人はいないか尋ねる）

場合によっては、両方の立場の人（グループ全員）への質問があってもよい（それは（4）の根本的な〈問い〉につながる場合もある）

もし、グループ全員が片方の立場を選んだ場合は、全員で反対の立場の人の理由・論拠を考えてみるとよい

### **(4) 根底にある価値や前提の違いについて話し合ってみよう：**

互いの立場への質問がなくなったら、

進行役は、「AとBの意見の違いの根底に、どんなちがいがあると理解したか」「AとBの立場の人が、共通して話し合うことのできる本質的な〈問い〉・論点は何か」を受講者に尋ねて、考えてもらう